



第7回年会「エピジェネティクス ～抵抗と適応の戦略～」開催

第7回日本エピジェネティクス研究会年会在、5月30日・31日の両日、奈良県新公会堂で開かれました。総勢325名の方に参加して頂き、22社の企業に協賛・展示をして頂きました。ポスター146題、特別講演1題、一般講演12題、奨励賞受賞講演2題、次回年会長講演1題の発表が行われました。また、ランチョンセミナーも開催され、3社に協賛して頂きました。同じ新公会堂の庭園で行われた懇親会にも多数出席頂き、とても盛況な年会となりました。参加者の皆様、大

日本エピジェネ
ティクス研究会
ニュース 第36号

奨励賞受賞者の表彰が行われ

本会賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から、国立がん研究センター研究所 竹島秀幸先生(写真・右)、東京農業大学 小林久人先生(写真・左)の2名が、本会奨励賞に選ばれ、受賞者講演の後に佐々木裕之代表幹事(写真・中央)による表彰が行われました。

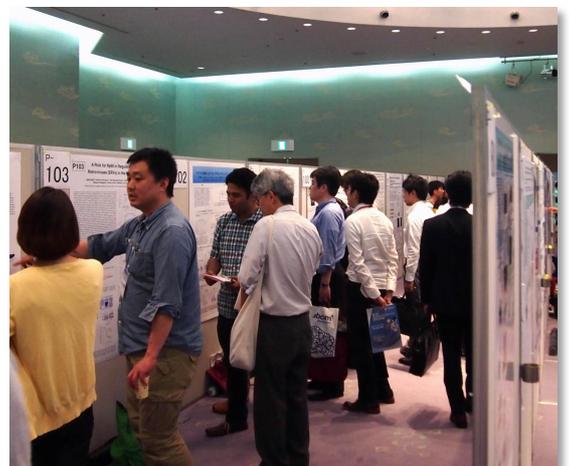
おめでとうございます!

幹事会と総会が開かれました

- ▶5月30日に幹事会、31日に総会が行われました。
- ▶2014年の年会は、塩田幹事(東京大学大学院農学生命科学研究科)を年会長に、5月25～27日、東京大学伊藤国際学術研究センターで開催されます。この年会は「ポスト・エピジェネティクス時代のエピジェネティクス」をテーマとし、大きな変動期を迎えつつあるエピジェネティクス分野において、本研究会が目指す方向性を再確認し、いかに未来へ発信するかを議論できるような研究会が開催される予定です。詳細が決まりましたら、またお知らせいたします。
- ▶2015年の年会長には、国立遺伝学研究所の角谷徹仁幹事が選出されました。



口演会場



ポスター会場の様子



第7回年会を開催して

第7回日本エピジェネティクス研究会年会長 中島欽一（九州大学）

第7回年会は、「エピジェネティクス ～抵抗と適応の戦略～」をテーマとして、カビ、植物、マウス、ヒトと、多岐に渡る生物種、また進化やストレス、疾患など、通常は一つの流れの中では行われないお話を一度に聞くことの出来るプログラムを企画させて頂きました。このようなことができるのも、全てのお話が、「エピジェネティクス」という共通の言語で語られるエピジェネティクス研究会だからこそ可能だったのだと思っています。私も、私自身の研究対象ではないトピックスについても全て楽しむことができ、参加者の方々もそうであったと信じております。例年より早めの梅雨入りで心配されましたが、雨はほとんど降ることもなく、懇親会も奈良県新公会堂の庭園で開催することが出来ました。また、懇親会やポスター会場での交流も活発に行われ、もちろん講演会場での熱いディスカッションも印象的でした。少しでも皆様の研究発展にこの会が貢献できたのであれば幸いです。参加者の数も最終的には300人を越える盛会となりました。来年は古都奈良から現在の首都東京へと場所を移して開催されます。この会がさらなる発展を遂げることを期待しつつ、本年会の終了報告および感謝の意を表します。



奈良県新公会堂



第2代代表幹事退任のご挨拶



九州大学生体防御医学研究所 所長・教授 佐々木裕之

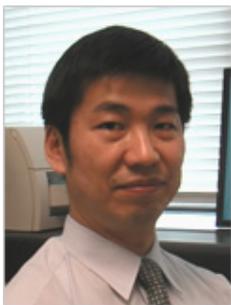
此度、奈良で開催された幹事会と総会を最後に、3年間務めてきた代表幹事の職を退任致しました。何とか重責を果たすことができたのも幹事や会員の皆様のご協力のお陰と感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

もとはと言えば研究情報交換の場として立ち上がった本研究会ですが、分野の盛り上がりとともに年々会員数が増加し、現在では学会並みのパワーを持つに至りました。JSTのさきがけ・CRESTの立ち上げや科研費の時限付細目への採用等にも、少なからず本会の活動が影響しました。初代代表幹事の田嶋先生以来の活動が花開いた3年間でもあったかと思えます。個人的には特定領域研究の領域代表者、国立遺伝研から九大への引っ越し、九大生医研所長就任と重なりましたが、忙しさと同時にやりがいを感じた年月でもありました。

私は立ち上げメンバーのひとりとして、「質の高い研究をしよう、特定分野に偏らずみんなで強くなろう、我田引水やスタンドプレーはしない」という精神で幹事会と本会を引っ張ってきたつもりです。エピジェネティクス・エピゲノムはまだまだ伸びる分野ですが、同時に少しずつ成果を出していかなければならない時期に入りつつあるようにも思います。しかし、あせることなく、質の高い研究とそれを支える若い研究者を育てていくことが重要です。次の牛島代表幹事がそれを実践してくださることと思います。私は今後も一幹事として本会の活動を支えていきたいと思えます。

とはいえ、私もまだ50代半ばですから研究でもう一花咲かせますよ。どうぞよろしく！

新代表幹事就任のご挨拶



国立がん研究センター研究所 上席副所長・エピゲノム解析分野長
牛島俊和

このたび代表幹事を拝命致しました。ご指名頂きました幹事の先生方、会員の方々に感謝申し上げます。

当研究会も2007年の発足から6年が経ち、田嶋代表幹事(大阪大学)、佐々木代表幹事(九州大学)のもと順調に発展、研究会としての基礎体力はついてきました。その基礎体力を会員に還元することが重要となっており、年会開催、ニュースレター発行、奨励賞授与、年会参加助成に加えて、何が有効か、是非、会員の皆様からお知恵を頂き、実行に移していきたいと考えています。一人の研究者ではできないけれども研究会だからできること、多くのエピジェネティクス研究者の役に立つことは何でしょうか？

私自身はトランスレショナルエピジェネティクスの分野の研究者で、研究対象はヒトやマウスです。同時に、エピジェネティクスの基本的仕組みを解明することの重要性は痛感していますし、植物での継代的なエピジェネティック変化や線虫の行動とエピジェネティクスなどという話題にも興奮させられます。そのために、様々な研究対象を用いた研究者が集い、活発な議論を戦わせる本研究会はとても有意義な場と思っています。

研究会の充実は会員の皆様のごアイデアとご協力がなくてはあり得ません。是非、一緒によろしくおねがいたします。



情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願
いいたします。お近くの広報委員（中島欽一、梅澤明弘、角谷徹二、古関明
彦、中山潤一各幹事）に気軽に e-mail ください。

日本エピジェネティクス研究会事務局

東京医科歯科大学 医歯学総合研究科

分子腫瘍医学分野内

庶務担当幹事 湯浅保仁

担当：阿部良子

住所：〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

TEL:03-5803-5184

E-mail: jse.monc@tmd.ac.jp